

森林組合だより

# やまびこ

創立50周年記念増刊号

No.72

平成27年6月



鼠ヶ関字橋掛地内 標高270mからの眺望

## 主なもくじ

- 第50回通常総代会提出議案、平成26年度事業活動報告 …… 2
- 平成26年度部門別損益、損益計算書、貸借対照表 …… 3
- 平成27年度運営の基本方針、訃報 …… 4
- 森の掲示板、行事等のお知らせ …… 5
- 創立50周年記念特集
  - ・ 創立50周年組合長あいさつ …… 6
  - ・ お祝いのことば …… 7～12
  - ・ 50年のあゆみ …… 13～15
  - ・ 50年の動向 …… 16・17
- H27組合組織構成図、木材市況、表紙の紹介ほか …… 18

編集/発行

**JForest 温海町森林組合**

〒999-7123 鶴岡市大岩川字木場場8

TEL (0235) 43-2313

FAX (0235) 43-2317

メールアドレス atsumisk@amber.plala.or.jp

HPアドレス: [shinrin-atsumi.or.jp](http://shinrin-atsumi.or.jp)

# 第五十回通常総代会

議事を進行する本間新兵衛氏



第50回通常総代会が5月28日、温海温泉林業センターにおいて、総代205名の内、139名(委任状、書面決議含む)が出席して、鶴岡市長様をはじめ来賓多数のご臨席を賜り、議長に山五十川の本間新兵衛氏を選出し、全10議案が満場一致で原案のとおり承認・可決されました。

## 提出議案

- ◆ 議案第1号 平成26年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案、注記表及び附属明細書承認の件
- ◆ 議案第2号 平成27年度事業計画設定の件
- ◆ 議案第3号 平成27年度借入金最高限度額決定の件
- ◆ 議案第4号 平成27年度余裕金預け入れ先金融機関決定の件
- ◆ 議案第5号 平成27年度一組合員に対する貸付金並びに債務保証最高限度決定の件
- ◆ 議案第6号 平成27年度各種取扱手数料等決定の件
- ◆ 議案第7号 平成27年度役員報酬決定の件
- ◆ 議案第8号 定款一部改正の件
- ◆ 議案第9号 運営規約一部改正の件
- ◆ 議案第10号 役員退任慰労金支給規程改正の件

質問を行う暮坪の奥井厚氏



本年の林業・木材産業は、人工林の本格的な利用期を迎えた豊富な森林資源を循環利用し林業の成長産業化やそれを通じた地方創生を実現していくとして、国はCLT(直交集成板)等の技術開発・普及による新たな分野での木材需要の創出とともに、施業の集約化による国産材の安定的・効率的な供給体制の構築、林業担い手の人材育成等の施策が重点的に推進されました。また、県では森林資源を「森の恵み・森のエネルギー」として活かすとした「森林(モリ)ノミクス」による林業・木材産業の振興を進める中、鶴岡市には林地残材等を燃料とする木質バイオマス発電施設の整備も始まり、来年度11月の稼働を目指し材の集荷も本格的に進められました。

挨拶を述べる大井組合長



こうした中、本組合は豊かな森林資源の有効活用を図り、組合員の経済的地位の向上と地域経済の発展に資するため昨年度策定した「経営ビジョン・中期経営計画」に基づく施業の集約化による森林整備等を軸に取組ました。本年度の森林経営計画の樹立面積は3地区で494haを作成し、組合員との合意形成のもと進めた集約化施業は、県営林との共同施業団地を含め搬出間伐を中心に5団地で158haを実施するとともに皆伐や再造林及び保育施業の委託にも積極的に対応し実施しました。また公的機関の利用については、山形県、鶴岡市及び山形県林業公社の入札で保育や搬出間伐等の施業25haを受注し、年間を通じた雇用の安定化を図る

# 二十六年度事業活動報告

とともに、地域林業の担い手たる事業体としての役割を果たしました。さらに継続した取組みとして森林境界の明確化、林業専用道の開設など森林整備を補完する事業を実施し、次年度事業に向けた基盤づくりを努めました。こうした取組から木質バイオマス燃料として付加価値が生まれた低質未利用材を含めた間伐材の生産量は13,306m<sup>3</sup>と前年度比129%に増大し、協定工場の原木需要に安定供給するとともに、本組合のラミナ製材事業においても消費原木自給率の向上などを背景に生産量は過去最高となりました。木材価格は依然厳しい情勢であったものの、本年度における事業総収益は4億2,644万円となり、事業総利益では7,523万円と計画比125%の実績を得ることができました。

この結果は、組合が提案して行う施業の集約化に対する組合員の理解と協力によって年間を通じた生産活動が可能となったことが大きく、さらに従業員の意識改革が組織的に進み、生産性の向上や流通体系が構築されるなど、こうした要因が搬出間伐での利益還元の実現につながり、事業の取扱高で員内利用率は90%と極めて高い水準となりました。また、事業管理費では、諸経費の節減に努め、事務所の修繕や備品等の更新を計画的に実施し、費用を計画額に収めることができました。

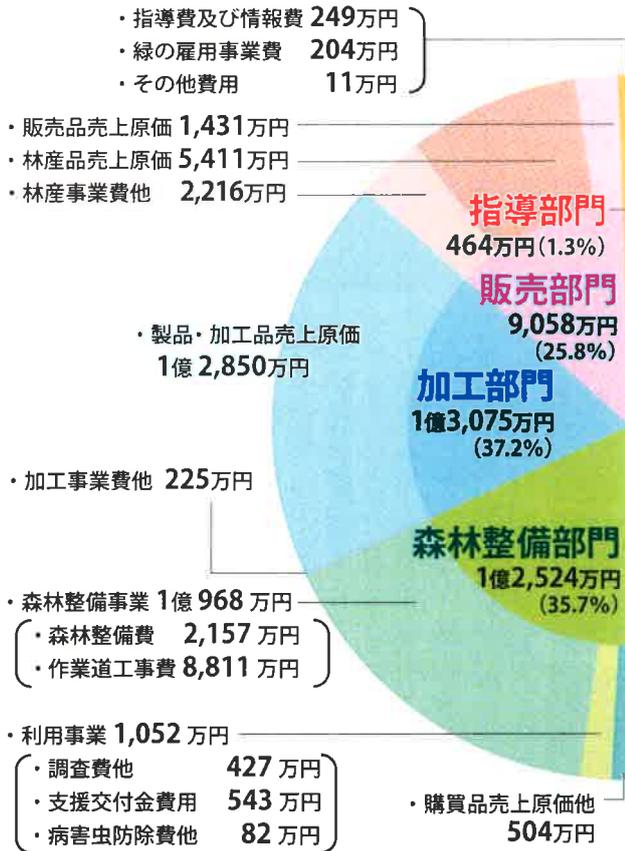
こうした結果、当期剰余金は1,848万円と昨年度に続き計画を上回る黒字決算となり、経営目標である組合員資本の充足をさらに加速させることができました。

ここに、組合員各位をはじめ、山形県、鶴岡市並びに関係機関のご指導・ご鞭撻に対し衷心より感謝を申し上げます。次第であります。

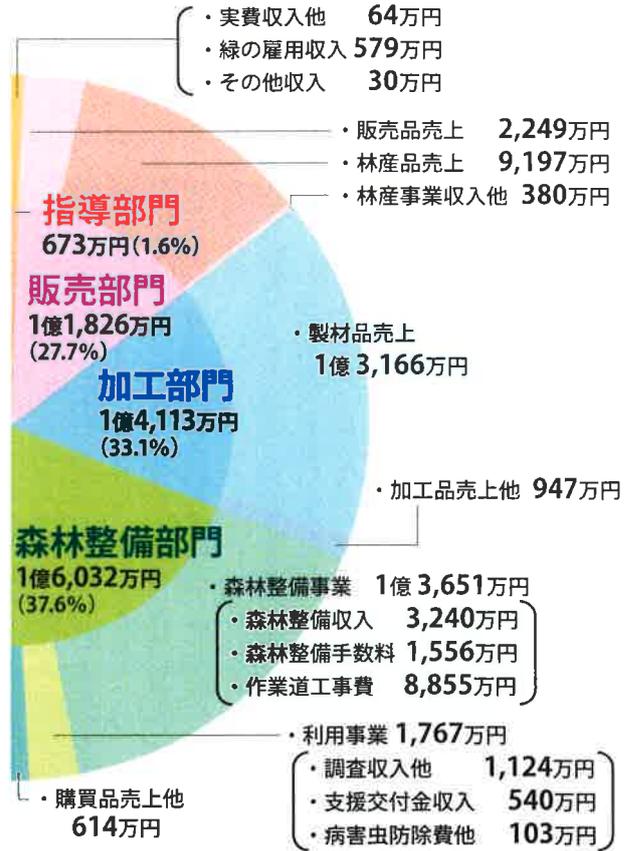


【平成26年度 事業の部門別損益】

**B 事業総費用 3億 5,121万円**



**A 事業総収益 4億 2,644万円**



**貸借対照表**  
平成27年3月31日現在

科目	内訳	計	科目	内訳	計
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>			<b>流動負債</b>		
1. 現金		98	1. 買掛金		26,728
2. 預金		174,112	2. 短期借入金		0
3. 売掛金	34,338		3. 未払金		19,446
貸倒引当金	△ 220	34,118	4. 未払法人税等		8,952
4. 未収金	17,974		5. 一般預り金		1,300
貸倒引当金	△ 77	17,897	6. 役員退任預り金		1,021
5. 棚卸資産		19,072			
6. 前払費用		690			
<b>流動資産合計</b>		<b>245,987</b>	<b>流動負債合計</b>		<b>57,447</b>
<b>固定資産</b>			<b>固定負債</b>		
<b>有形固定資産</b>			1. 長期借入金		
1. 建物	4,623				0
2. 構築物	139		2. 退職給付引当金		64,745
3. 機械装置	15,842		<b>固定負債合計</b>		<b>64,745</b>
4. 車両運搬具	1,923				
5. 工具備品	29				
6. 附属設備	729		<b>負債合計</b>		<b>122,192</b>
7. 一括償却資産	153		<b>純資産の部</b>		
8. 土地・森林	10,371		<b>組合員資本</b>		
<b>有形固定資産合計</b>		<b>33,809</b>	1. 出資金		102,492
<b>無形固定資産 (電話加入権)</b>			2. 利益剰余金		
		223	法定準備金	14,500	
<b>外部出資その他資産</b>			任意積立金	39,000	
1. 系統出資金	10,985		当期末処分剰余金		
2. 系統外出資金	12,193		(1) 当期剰余金	18,484	
3. その他資産	100		(2) 前期繰越剰余金	5,486	
<b>外部出資その他資産合計</b>		<b>23,278</b>	利益剰余金合計		<b>77,470</b>
<b>固定資産合計</b>		<b>57,310</b>	3. 資本準備金	1,143	
			<b>組合員資本合計</b>		<b>181,105</b>
			<b>純資産合計</b>		<b>181,105</b>
<b>資産合計</b>		<b>303,297</b>	<b>負債・純資産合計</b>		<b>303,297</b>

**損益計算書**  
平成26年4月1日～平成27年3月31日

科目	計 (万円)
<b>A 事業総収益</b>	<b>4億 2,644</b>
<b>B 事業総費用</b>	<b>3億 5,121</b>
a 事業総利益 (A - B)	7,523
b 事業管理費	4,856
c 事業利益 (a - b)	2,667
d 事業外損益	70
e 特別損益	2
f 税引前当期利益 (c + d + e)	2,739
g 法人税、住民税額及び事業税	891
h 当期剰余金 (f - g)	1,848
i 前期繰越剰余金	549
j 当期末処分剰余金 (h + i)	2,397

**平成26年度剰余金処分案**

摘要	小計 (万円)	合計 (万円)
I 当期末処分剰余金		<u>2,397</u>
II 剰余金処分額		<u>1,900</u>
1. 法定準備金	400	
2. 任意積立金	1,500	
(損失補填)	(700)	
(事務所建設)	(800)	
III 次期繰越剰余金		<u>497</u>

# 二十七年 度 運 営 の 基 本 方 針

## \*引き続き森林資源の有効活用で 森林整備の推進と林業所得の増高を目指す

昭和41年3月、温海・山戸・福栄・念珠間の森林組合が合併して本組合が誕生し、本年度「創立50周年」の節目の年を迎えました。これまでの経済的社会的変革の中で、その時々の問題に直面しつつも乗り越え継続し得たことは、組合員の温かい支えと行政・関係機関のご支援の賜と改めて感謝する次第であります。

本年度は、アベノミクスが第三の矢とする「民間投資を喚起する成長戦略」が功を奏すかどうか「勝負の年」と位置付けられ、本年2月には「地方の好循環拡大に向けた経済対策」として国の26年度補正予算が成立し、森林・林業の分野においては、木材自給率50%を目標とする「林業の成長産業化」の実現に向け引き続き木材需要の創出、効率的な流通・供給体制の整備、林業の担い手育成等を推進する事業予算が組まれました。しかし、消費税引上げなどの影響で住宅投資は冷え込んでおり、木材価格の市況は駆け込み需要の一时的な高騰から下降に転じるなど、動向が懸念される中で27年度がスタートしました。政策面では林業・木材産業に追い風が吹いているものの、こうした経済情勢から「使う林業」を事業軸としている本組合の経営にあつては、不透明な厳しい年と危機感をもって取組まなければなりません。

こうした中で、温海地域の豊かな森林資源の有効活用と林業所得の向上を目標とした「経営ビジョン・中期経営計画」3年目として、引き続き施業の集約化に取組み、森林整備の促進と木材生産の安定化に努めるとともに、木材市況の動向を注視しつつ、これまで信頼関係を構築してきた供給先との連携を密にして需要の安定化を図ります。また、今年11月の稼働を目指し整備が進んでいる鶴岡バイオマス発電の燃料木材確保の目標達成に関係者とともに努力してまいります。

本年度の森林経営計画は3地区553haの樹立を目指し、提案する集約化施業は4団地で合意形成を図り、搬出間伐を中心に約150haを実施する計画であります。

さらに高齢林（50年生以上）が7割以上を占める偏った林齢構成を是正し循環利用を基本とした人工林の理想の形態を造成していく必要があります。このため今後は皆伐から再造林につなげ、幼・壮・高齢林が混存する人工林の形成に向けた施業の推進策の検討を行政・関係機関と連携し取組んでまいります。

公的機関の利用については、組合員事業の遂行を妨げない限度において、国有林、山形県鶴岡市及び山形県林業公社等の森林整備事業の入札に参加し、必要な事業確保により年間を通じた雇用の安定と収益の増高をもって経営の安定化に努めます。

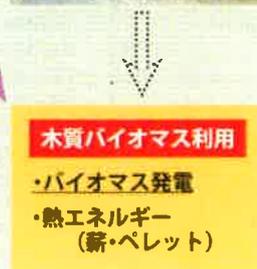
また、この度の補正予算で組まれた森林整備加速化・林業再生事業の採択を受け、高

性能林業機械フォワーダ（積載式集材運搬車）1台を年度内に導入し、生産性及び収益性の向上を目指し、さらに森林境界の明確化、生産基盤である林業専用道等の路網整備に継続して取組み、森林整備の促進と森林生産力の増進を図ります。

本年度は厳しい経営環境が予想されるため、意識改革はもとより事業を担う職員及び労務員の人材育成と資質・技術力の更なる向上に努め、全員が目標を共有し協力して事業を行う経営体質の強化に引き続き取組んでまいります。

## 資源のフル生産・フル活用

### 基本的な造材



## 訃報



理事佐藤豊和氏（木野侯）が、今年四月六日、三期半ばでご逝去されました。（享年六十四歳）

佐藤氏は、平成二十年五月に就任以来、これまでの七年間に亘り組合運営と地域林業の再生と振興にご尽力されました。

謹んで衷心より  
ご冥福をお祈り  
申し上げます。

# 森の掲示板

## 「豊かな森と海づくりinあつみ」開催 魚の森づくり活動スタート

◆「豊かな森と海づくりinあつみ」開催  
昨年十月四日、鼠ヶ関橋掛地内の日本海を眼下に望む山林において、「豊かな森と海づくりinあつみ」が開催され、「魚の森」の植樹を行いました。

豊かな森の栄養分は川から海へと注がれ豊かな海を育んでいます。この度、同月金山町で開催した第三十八回全国育樹祭、平成二十八年度第三十六回全国豊かな海づくり大会の山形県での開催決定を機に、「森」と「海」それぞれに係わる人々が森づくり活動を通して自然の恵みを享受し、守り育てる心を次世代に継承することを目的に開催されました。

当日は時折小雨模様の中、地域住民・漁業者・鼠ヶ関小学校児童など約250名が参加し、ヤマザクラとヤマボウシ計80本を植樹しました。

また、共催事業として、児童によるクロダイ稚魚の放流、さらに山の道トレッキング自然教室、高性能林業機械の実演、お昼



にはエビ汁とつや姫のおにぎりが振る舞われ、辨天太鼓の演打で会場を盛り上げるなど有意義な内容となりました。

◆「ねずがせき魚の森づくりの会」発足  
豊かな森と海づくりinあつみで植栽された「魚の森」等の保全活動を通して漁業環境の改善に寄与することを目的として、昨年八月二十二日、鼠ヶ関・早田の漁業者会と自治会、山形県漁協、温海町森林組合、鶴岡市の構成で「ねずがせき魚の森づくりの会」が発足しました。

去る六月六日早朝、会員35名が参加し、植樹後初となる刈・施肥作業等の森づくり活動が行われました。



## 林道整備が急務!

### 「鼠ヶ関大岩川・橋代」を結び 沿岸部縦断路線開設を要望

#### 現状と課題

鼠ヶ関から大岩川の沿岸部には約800haの森林に約500haの人工林が存在し、その大半が50年生以上と利用期を迎え蓄積量は年々増大しています。しかし、国道7号線と並行したJR羽越本線が大型車両の7号線への通行障害となり、森林資源の活用が困難な状態にあることから、これらを回避する林道整備が強く望まれます。

#### 要望の概要

こうした現状から、総面積の90%を占める温海地域の振興にとつて、森林資源の活用は極めて重要であり、路網整備は喫緊の課題であることから、座談会などで地域の意見を踏まえ関係自治会と連携し、鶴岡市へ左図の林道整備の早期実現を強く要望しています。



## 「木質バイオマス発電」 椰引地域庄内南工業団地に整備

### この秋、稼働予定

間伐等で発生した未利用材を原料として燃焼させる本格的な木質バイオマス発電所が今年十一月頃に稼働する予定です。発電出力は2千kw、3千世帯を超える分の電気を生み出します。昨年からの工事が進められ、当組合でも燃料となる間伐未利用材の供給をはじめており、新たな木材需要拡大と地域振興に大きな期待が寄せられています。



## 行事等のお知らせ

### \*創立五十周年記念式典の開催

日時 7月24日(金)14時  
会場 あつみ温泉「萬国屋」  
※式典において、左記の記念講演が行われます。お聞きしたい方は組合までお申込み下さい。

講師・(株)トーセン社長 東泉清寿氏  
演題「林業がつくる地方創生」  
時間・14時50分～15時40分

### \*山の活動体験実践講習(募集)

山の活動体験事業「サラリーマン林太郎」を鶴岡市との共催により、次のとおり開催します。

日時 8月22日(出)9時～16時

内容 安全な伐木造材作業他

対象 18歳以上で興味のある市民

定員 先着20名

参加料 1500円

その他 作業しやすい服装・靴、雨具など

申込み 8月11日(火)までに当組合へ

### \*「森林ふれあい大学」(募集)

本年度の組合員研修視察「森林ふれあい大学」は創立五十周年を記念して二泊二日の日程で、次の通り開催します。

期日 10月29・30日(木)・(金)

視察先 栃木県内の木質バイオマス発電他

参加料 1万5千円/お1人様

日程等 別紙ご案内チラシのとおり

定員 先着40名程度(大型バス一台)

申込み 9月25日(金)まで当組合へ





## 「温海町森林組合 創立50周年にあたり」

代表理事組合長 大井喜助

本組合の創立50周年にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

旧温海・念珠関・山戸・福栄の4森林組合が合併し、昭和41年3月に温海町森林組合がスタートしました。これまで初代組合長三浦豊蔵氏から、大滝勘作氏、五十嵐幸一氏、山口八郎氏、大滝淑勝氏、そして佐藤重夫氏から私に至るまで、現在の温海町森林組合の礎を築いていただいた歴代の組合長さんをはじめ役職員の皆さんには並々ならぬご労苦があったものと、まずはそのご功績に対し衷心より感謝を申し上げる次第であります。また、組合員の皆様にはこれまで幾度に支えていただきましたこと改めて感謝申し上げます。

さて、顧みますと合併当初から高度経済成長に併せ、木材需要の増大とともに木材価格は高騰し、木材の輸入自由化の影響から外材丸太がさらに多く使われるようになりました。

また、伐採跡地への植林や拡大造林が国を上げて推し進められました。しかし昭和50年代半から木材価格は一転して下落し、バブル景気の崩壊後は造林面積も激減しました。さらに山村においては過疎や高齢化の進行で林業生産活動は低迷するなど、現在は底値安定の時代となっています。まさに激動の50年であったと思います。

当組合においては、あつみ製材の多額の負債を抱えた製材工場を引き継ぎ、その再建に向けた計画づくりには、行政並びに各関係機関の皆様には絶大なるご協力・ご支援を頂き、その目標の達成に向けては役職員一丸となって取り組んでまいりました。その結果については皆様ご承知のとおり、目標年度を待たずして再建計画を達成することができました。改めて関係各位に対し深く感謝と御礼を申し上げます。

木材価格は依然厳しい状況が続いておりますが、森林の持つ多面的機能への期待の高まりとともに、成熟した森林資源の活用に関国の施策が動き出しており、そのような意味では追い風と感じております。また、今年度は木質バイオマス発電所が稼働する予定で工事が進められ、木材に新たな需要と付加価値が生まれています。現在、本地域には伐期を超えた林分が多く存在しており、今後は間伐と併せ皆伐も推進し、その伐採跡地へ植林というサイクルによる循環利用を基本とした人工林の造成が必要になっています。これまで以上にしっかりと集約化施業に取り組んでいかなければなりません。

当組合は、今後とも役職員が一丸となって、地域林業の担い手としてこれまで以上に努力し、時世に応じた事業に積極的に取り組んで参りますので、組合員はもとより、関係各位の尚一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げ挨拶と致します。





## 「温海町森林組合 創立50周年をお祝いで」

鶴岡市長 榎本政規

温海町森林組合が創立50周年の節目の年を迎えられましたことは誠に喜ばしく、心からお祝い申し上げます。

貴組合におかれましては、昭和41年3月に念珠関森林組合、温海森林組合、山戸森林組合、福栄森林組合の4組合が合併されてから、半世紀もの長きにわたり、造林事業をはじめ、木材の生産から販売まで一貫した流通体制を構築し、地域の林業振興に多大なご貢献をしてこられました。この間、貴組合の長い歴史の中には、木材価格の下落や経済の動向などにより、様々な困難もあったかと存じますが、「短尺ラミナ材生産」や「森林路網整備」、「提案型集約化施業の実施」などの先駆的な活動によってこの難局を乗り越えられ、現在では安定した組合経営により、森林所有者への木材代金の還元だけでなく、若者の雇用にも積極的に取り組むなど、本市経済の発展にも大きく寄与されております。これもひとえに、大井組合長をはじめ、歴代の組合長、役員や職員、そして組合員各位の弛まぬご努力の賜物であり、心から敬意を表します。

また、今年度稼働予定の木質バイオマス発電事業は、貴組合のご尽力なくしては実施できなかったことであり、関係の皆様のご協力に対し、心から感謝申し上げます。

この木質バイオマス発電事業は、電力の固定買取制度によって20年間継続した取組みとなることから、本市林業に大きな変革をもたらすものと期待しておりますが、そのためには、安定的に燃料用木材の供給を行うことが不可欠であります。この課題解決には、森林所有者と事業者の連携が何より重要であり、貴組合の果たす役割は益々大きくなると存じておりますので、引き続き、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

また、平成28年秋には当地を主会場に、天皇皇后両陛下のご臨席が慣例となっている「第36回全国豊かな海づくり大会」が開催され、鼠ヶ関港において海上歓迎・放流行事が行われます。この大会のテーマである「森と川から海へつなぐ生命（いのち）のリレー」にあるとおり、健全な森林づくりと海づくりは密接に関係しているところであり、本市の豊かな自然環境を継承していくためにも、貴組合が地域の先導役となって森林の整備促進はもとより、地域の自然環境の維持発展にご尽力されますことをご期待申し上げます。

本市では、鶴岡の未来を創造する成長戦略として「鶴岡ルネサンス宣言」を掲げ、「森林文化都市」をその柱の一つとしております。市の7割を超える面積が森林である本市にとって、多くの市民が森林に親しみ、恵まれた森林資源を生かした取組みを進めることは、地域への誇りを育み、地域の活力増進や活性化に繋がることと存じておりますので、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、温海町森林組合の今後益々のご発展と組合員の皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。お祝いのことばといたします。





## 「温海町森林組合の 更なる発展を祈念して」

山形県庄内総合支庁  
森林整備課長

古川 和史

温海町森林組合の創立50周年記念、誠にありがとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

また、貴組合が、昭和41年の設立以来、幾多の困難、危機を乗り越え、今日の隆盛を迎えておりますことに対しまして、心より敬意を表します。

設立当時の昭和40年代、日本は高度経済成長の真っただ中にあり、木材需要は拡大を続けておりました。

本県においても、素材生産量は60万m<sup>3</sup>を超え、また、昭和42年には山形県林業公社が設立され、スギを中心とする拡大造林が盛んに行われていた時期であります。

設立以来順調な運営が続けられていた貴組合にとって、最大の危機は、平成3年のバブル経済の崩壊と期を同一にした、あつみ製材事業協同組合の事業不振、それに伴い森林組合経営も悪化し、多額の欠損金を計上せざるを得ない時期が長く続いたことであろうかと思えます。

この時期、広域合併への参画も見送られる中、町や系統機関からの支援、増資等を受けながら、あつみ製材事業協同組合の資産を引き受けるとともに、森林組合の経営を再建されたことは、役職員の皆様の筆舌に尽くしがたいご努力があったものと改めて敬服いたします。

現在は、新潟北部木材加工協同組合や国産材製材最大手の(株)トーセンと提携し、集成材向けのラミナ製材ラインの設置により、素材生産から加工まで、一つの組合の中で完結したシステムを構築し安定した収益を得ており、これまで、工夫を重ねながら製材加工部門を保持してきたことが、まさにストロングポイントになっているものと思えます。

また、貴組合は、組合員との合意形成のもと森林経営計画を作成し、路網と高性能林業機械による低コスト集約化施業を県内でもいち早く導入し、適切に間伐等の森林整備を行うとともに、間伐材生産により、組合員に収益を還元する事業運営に取り組まれており、その成果は、林業関係の全国誌にも度々取り上げられております。

まさに、県が推進する森林ノミクスの先端を走る森林組合であると言っても過言ではないと思えます。

併せて、施業プランナーなど人材の育成にも積極的に取組まれ、職員、技術班員とも、若手からベテランまで、バランスのよい構成となっていることは、将来に渡り安定した組合運営がなされるものと確信しております。

山形県を人の横顔として見ると、温海はまさに鼻に当る地域であります。これからも、常に新鮮な空気を取り込み、新陳代謝を盛んに健全なる発展がなされることを祈念してお祝いのことばといたします。





## 「創立50周年を祝して」

山形県森林組合連合会  
代表理事会長

佐藤 景一郎

温海町森林組合の創立50周年を、心よりお祝い申し上げます。温海町森林組合は、旧温海村、山戸村、福栄村、念珠関村の4森林組合が合併して、昭和41年3月に創設され、以来、半世紀にわたって幾たびかの激動の時期を乗り越えながら、先駆的な事業にいち早く取り組まれ、県内森林組合を常にリードしてこられました。

とりわけ、平成12年度には、当時経営難に喘いでいたあつみ製材事業協同組合を併合するとともに、22年度には、既存施設をラミナ製材の専門工場へと切り替え、現在では、新潟県村上市の集成材製造工場に、県境を跨いで原料供給する最大の組織体に発展しております。

また、平成24年度には、森林施業プランナーの認定資格をいち早く取得し、提案型集約化施業を積極的に取り入れるとともに、森林境界明確化事業や経営ビジョン・中期経営計画の策定等に県内先駆けて取り組んでこられました。これらの実績が認められ、全森連主催の平成27年度森林施業プランナー養成二次研修（全国2か所、3日間）の東日本における実施組合として、当組合が選定されるなど、全国的にも高い声価を得ております。

こうした顕著な業績は、ひとえに貴組合の諸先輩並びに役職員の皆様の並々ならぬご努力の賜物であり、改めて心より敬意を表するとともに、感謝を申し上げます。

さて、大変喜ばしいことに、昨今、山形県の林業・木材産業界にも力強い追風が吹いてきております。ご案内のとおり、福島県塙町に本拠地を置く国産材製材大手の協和木材(株)が、新庄市の鳥越地区に、来年夏の操業開始をめざして、年間12万㎡のスギの原木を消費する大型の集成材製造工場を建設することになりました。また、この秋には、鶴岡市櫛引地区に、毎時2,500kwの出力、年間5万tの木質燃料を消費するバイオマス発電所が操業を開始するほか、県内数か所で同種の計画が持ち上がっております。さらには、天童市の家具メーカーが、県産スギ材の圧密加工による成形合板技術を駆使した椅子・テーブルや応接セットなどの高級家具の開発に成功し、全国から注文が殺到しているとのことでもあります。

まさに、山形県の林業や木材産業が、成長軌道に乗って大きく飛躍できる絶好のチャンスが到来したと言えるのではないのでしょうか。

県森林組合連合会といたしましては、系統一丸となって県内3万7千組合員の負託に応えるべく、従来にも増して森林環境の保全が図られ、林業生産活動が活発となるよう、専心努力してまいります。

温海町森林組合におかれましては、創立50周年を機に、これまでに築き上げてこられた歴史と伝統を重んじつつ、新たな時代に向かってますます充実・発展されますよう、心よりご期待申し上げますとともに、組合員各位のご健勝・ご活躍をご祈念申し上げ、お祝いのごあいさつといたします。



## 「さらに役職員一丸となった 模範組合を期待する」

(越沢) 元代表理事組合長 大滝 淑勝

温海町森林組合創立50周年をお迎え出来ました事、謹んでお慶び申し上げます。

温海村、山戸村、福榮村、念珠関村の四森林組合が、合併なされたころ、当時を振り返って見ますと、温海地域には豊かな森林資源の多くが人工林だったと思います。また、杉の立木価値も高値で取引され、当時は杉の石単価は労働日給の十数倍での取引価格でありました。そのため、皆伐はせずに部分伐採の売買でもお陰があり、伐採跡地には次世代のためにと必ず植林をして、緑の山を造り育ててきたことが、今の豊かな森林を見ると良き時代が思い浮かびます。

この50年間、温海森林組合は多種多様な事業にも逸早く積極的に取り組み、どんなに厳しい事業や困難にも前を向き、目標の達成のために努力されてきたことが健全な組合運営につながっているものと心から感謝を申し上げます。

これは、温海町森林組合の役職員が一丸となって、成し遂げようという意識の表れの結果で、決して過言ではなく、この纏まりに花を咲かせた現在の組合の姿に、衷心よりお祝い申し上げます。

私事ではありますが、在職中は、林業構造改善事業により取組んだ製材の引き受け問題において、組合員各位、町民の皆様、関係者の皆様には、大変なご心配をお掛けいたしました。皆様方からの厚いご支援・ご協力のもとに、再建計画が前倒しにて達成できましたこと、改めて感謝申し上げます。さらに、現在では新たな製材施設の整備をもって、製造経費の削減、販売ルート安定確保により、加工部門が進化した姿で順調に取り組み目標を達成されていることに対しましても、皆様方に重ねて心から御礼と感謝を申し上げます。

終わりに、今後とも温海町森林組合が役職員一丸となって時代を見越した組合運営に取り組まれ、益々ご繁栄なされますとともに、県、全国の模範森林組合とされますことを御祈念を申し上げます。私の御祝のことばといたします。





## 「温海町森林組合 創立50周年を振り返り」

(山五十川) 前代表理事組合長 佐藤重夫

昭和41年、温海管内旧4村森林組合が合併し、今年度で節目の50周年、半世紀の歴史を刻むこととなりました。その過程には、地域の森林・林業の変遷と幾多の困難を乗り越えて、今日の森林組合を築いて頂きました多くの先輩諸兄に敬意とともに感謝し、改めて今後の森林組合、地域林業の方向など次の世代にどう繋げて行くか、今私どもに課せられた大きな責務かとも思います。

50周年を振り返り思うに、私が取り組んだ林業、そして森林組合との係り、そしてこれからの思いなどを述べさせていただきます。

ちょうど家業の農林業を継いだ時期でしたが、当時の林業は高度経済成長期にあって木材の価値価格も年々上昇していたとき、林業技術の修得と良質材の生産を目指した研究グループとして林業クラブが発足し、参加させて頂きました。その後温海町林業研究会が設立し、県、町、森林組合の指導・支援を頂いて、最盛期は200名ほどの会員となり大変活発な研修活動が行われ、管内はもとより隣新潟県の山北町林業青壮年部との交換会、また県内外の林研グループとの交流等にも数多く参加させて頂きました。

森林組合関係では、合併前から念珠関村森林組合が木材共販事業を行っており、合併後も「あつみ杉」の有利販売を目指し運営され、取扱量は年々増大していきました。

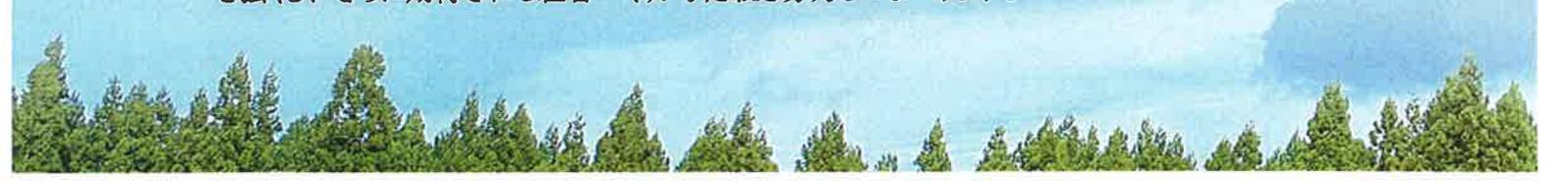
当時山五十川地域にも、伐採搬出の作業班が森林組合の下に結成され、私も農閑期に働かせて頂き20年ほど勤めました。作業は本格的な間伐や皆伐の架線による伐採・搬出作業であって、林業技術や仕事の面についても先輩の方や同業作業班の皆さんから多くの技術を教わり、その後の自伐林業におおいに役立ち、すばらしい経験となりました。

昭和62年に森林組合役員の改選があり、地域の推挙によりまして森林組合理事に就任以来、これまで監事3期9年、理事6期18年、またその間平成17年から代表理事組合長として3期9年間を務めさせて頂きました。

組合長に就任しましたときは、あつみ製材の引き受けにより抱えた多額の債務の再建中にあり、繰越欠損金の補填達成を第一目標に取り組んでいる時でありました。

平成17年就任の年、組合が最も頼りとしていた温海町が新生鶴岡市として広域合併されましたが、幸にも全面的な変わらぬご支援を頂くことができ、任期最終の平成19年度決算で繰越欠損金は全額補填され、苦しかった赤字経営からようやく脱却することができました。これもひとえに県並びに温海町から新鶴岡市と関係各位のご支援ご協力の賜と深く感謝する次第であります。

私は現在も理事の職にありますが、この豊富な森林資源を有効活用することにより、さらなる地域林業の振興と組合員の林業所得の向上を重要課題として、組合員との信頼関係の中に絆を強くし、さらに期待される組合づくりに引き続き努力してまいります。





## 「創立50周年記念によせて」

(温海) 元森林組合職員 高井 美智子

創立50周年、誠におめでとうございます。

私は温海町森林組合に臨時職員として、昭和50年、28才の時に採用していただき、その後、52年に本採用となり、定年を迎えるまでの32年間在籍させていただき、その後2年間嘱託職員としてお世話になりました。

在籍中は、5人の組合長に支えられ、また職員体制の変化や諸事情により3ヶ所の事務所移転を経て、平成22年3月に退職いたしました。

思い起こせば、就職当時から造林業務の担当を命ぜられ、その頃はまだ材価が高く植林事業も盛んで中核林業事業に従事し、連日組合員の一筆カードの作成に明け暮れていたことが懐かしく思い出されます。

当時の造林は、組合員も一生懸命で年間30万本以上の杉苗が植林されていました。担当者としてその苗木運搬にも係わり、当時小学3年生だった娘の作文に「うちの母ちゃんは、杉苗木を運び力持ちです。」と書かれ、その作文がラジオ放送で紹介されたこともありました。

また、木材共販は毎月21日に決まって行われ、前日はその資料作り、そして当日は売上金の集計で職員全員が毎回のように残業したことが懐かしい思い出です。

当時の共販事業は、買い手業者が多い時には30人を超えるときもあり、大変活気がありました。12月の「山の神祝」は恒例行事として買い手業者や大口出材の組合員を招待し、温海温泉の旅館で盛大に開催されたものでした。

その後、景気の低迷に伴い、木材価格の落込みで組合経営の厳しい年月が続き、さらに製材問題のあった時期の役員改選では役員を引き受ける人がいないなど、苦悩の日々もありましたが、役職員が一丸となって乗り切っていました。

楽しい思い出としては、毎年実施される組合員とのバスで行く賑やかな1日研修視察、そして平成11年に職員・労務員と林業研究会の皆様との屋久島の「縄文杉」までの登山が、印象深く残っています。

現在の組合は、林業に対する高い職業意識を持った職員はもとより、作業員にも若者が定着し、活気あふれる県内屈指の組合に成長していると、私は自負しております。

その一員として、微力ではありましたが、関係者各位に支えられ、組合の再建と地域林業の発展に貢献できたことを誇りに思い、皆様に改めて感謝申し上げます。

最後に、温海町森林組合の今後益々のご発展をお祈り申し上げ、記念に寄せる言葉と致します。



世界遺産の屋久島研修旅行 縄文杉 平成11年8月28日

# ・50年のあゆみ・

50年前、温海町森林組合の設立は「従来の末端行政機関から組合法に基づく民有林の担い手として、温海町行政区画一元とした経済基盤を確立し、林業の収益性を高めて他産業と等しく企業的に成り立たせ、組合員の社会的経済的地位を向上させるため、林業を取り巻く諸問題を解決し、民有林政策を実施する機関としての役割を十分に果たせる林業経営の合理化・近代化の推進母体となる森林組合を設立しその基礎を強化拡充する。」を目的として山戸、温海、福栄、念珠関の4森林組合が合併して誕生しました。

昭和47年～昭和50年(10年)

1966▶1975

## ■高度経済成長、外材輸入の増加

木材需要の増加に併せ外材の輸入が拡大し、木材供給の中心が国産材から外材に転換しました。山形県においても、昭和40年後半には外材が木材需要量の50%を超えました。この頃、いわゆる「拡大造林」が強力におし進められ、同じく後半まで年間約3千haが植林されました。また、昭和42年4月には山形県林業公社が設立され、温海地域においても民有造林の拡大とともに、条件が不利で個人では進みにくい地域を中心に分収方式で植林が進められました。

- S41 3月 温海町森林組合設立 **初代組合長 三浦豊蔵氏**  
6月 第1回通常総代会

---

- S42 4月 山形県林業公社が設立  
温海地域の公社造林事業による植林がスタート  
6月 第1回木材共販（鼠ヶ関港湾敷地を借地し共販所を開設）  
8月 山北町林業クラブと温海町内林業クラブとの交換会が始まる（以後35年続く）

---

- S43 9月 林業指導書「あつみ林業」の発行

---

- S44 8月 温海町第1回造林コンクールを開催

---

- S45 2月 第1号の「組合だより」を発刊 ・日本万国博覧会（大阪万博）

---

- S47 4月 **第2代組合長 大滝勲作氏 就任** ・為替が固定相場制から変動相場制に移行  
・原油価格の大幅な上昇「オイルショック」  
9月 温海町第1回栗品評会を開催

---

- S48 北海道十勝林研と温海町内林業グループとの交換会

---

- S49 7月 温海町桐栽培同好会を結成  
9月 現在の第1回目となる「組合員一日研修視察」を実施  
12月 全国森林組合大会で当組合が「優良組合賞」を受賞

---

- S50 5月 第10回通常総代会  
8月 当組合の林産班長 佐藤勇吉氏が「山形県林業賞」を受賞する



初代組合長  
三浦豊蔵氏



第2代組合長  
大滝勲作氏

昭和51年～平成7年(20年)

1976▶1995

## ■木材価格の下落、山林への関心の薄れ

木材需要が横ばいとなる中で、関税引き下げによる安価な外材が大量に輸入されました。

昭和50年代後半には、木製資材が鉄、コンクリートなどの二次製品に替わり、木材需要が大幅に減少したことで外材価格の値下がり引きずられ、昭和55年には国産材価格の大幅な下落とともに山林への関心はうすれはじめ、植林面積は60年代には激減しました。

当組合は急激な木材価格の下落などで欠損金が発生するなど、昭和55年以降は厳しい経営状態が繰り返されました。

- |     |  |  |
|-----|--|--|
| S51 | 中核林業地域の指定を受ける  |  |
| S52 | 2月 組合長大滝勘作氏、病気によりご逝去（任期中）                            |  |
|     | 3月 <b>第3代組合長 五十嵐幸一氏 就任</b>                           |  |
| S55 | 木材価格がピークを迎える   |  |
|     | 6月 木材価格は、これまでの高騰から下落に転じる（長期低迷の元年）                    |  |
| S56 |  | ・県政100年記念「県民の森」を整備                                 |
| S57 | 4月 組合の損失金補填計画（S57～S59）を策定（木材価格の急落で発生した繰越欠損金の解消）      |  |
| S59 | 12月 現在の組合工場敷地に木材集出荷販売施設を整備・開設<br>（※鼠ヶ関港湾敷地の木材共販所を移転） |  |
| S60 | 4月 第20回通常総代会<br>温海地域に松くい虫被害が初めて確認される                 | ・国際森林年<br>・山形県林業公社造林1万ha達成<br>・史上最悪の「日本航空123便」墜落事故 |
| S61 | 4月 組合の体制刷新運動計画（S61～H2）を策定<br>（※繰越欠損金の解消、間伐材の付加価値向上）  | ・この頃から「バブル景気」と呼ばれる                                 |
| S62 | 4月 <b>第4代組合長 山口八郎氏 就任</b>                            |  |
|     | 12月 林産物処理加工施設（間伐材小径木加工）の竣工・稼働                        |  |
| S63 | 9月 第12回全国育樹祭「県民の森」で開催                                |  |
| H元  | 鼠ヶ関港湾敷地内の所有地売却（建物敷地）                                 | ・消費税法施行3%  |
| H3  | 7月 あつみ製材事業協同組合設立 第1回総会                               |  |
|     | 11月 「川村造林記念山形県林業賞」を組合が受賞                             |  |
|     | 12月 組合の合併25周年記念祝賀会を開催                                | ・「バブル景気」の崩壊、資産価格が一気に下落                             |
| H4  | 11月 あつみ製材事業協同組合 製材工場竣工・操業開始                          | ・気候変動枠組条約採択  |
| H5  | 庄内地方森林組合広域合併促進部会の設置・参加                               |  |
| H6  | あつみ製材経営検討会の設置  |  |
| H7  | 4月 第30回通常総代会<br>森林組合広域合併を見送る                         | ・阪神・淡路大震災（都市の大被害）                                  |



第3代組合長  
五十嵐幸一氏



第4代組合長  
山口八郎氏

平成8年～平成27年(20年)

1996▶2015

## ■育成途上の人工林整備から使う林業への転換

木材価格の長期低迷で植林は激減し、温海地域においても公社造林の植林は平成12年(植林総面積 663ha)で終了しました。一方、環境への関心の高まりから森林への多面的機能に対する期待により、林業の中心となる作業は環境的側面を重視した保育的間伐へと移行しました。さらに現在は、これまで育てた人工林資源が成熟してきたことから「使う林業」の時代として、国は2020年までに木材自給率50%の達成を目標としています。

- |                               |   |  |
|-------------------------------|---|--|
| <p>H9 4月</p>                  | <p>組合長山口八郎氏、闘病により組合長を辞職(任期中)<br/> <u>第5代組合長 大滝淑勝氏 就任</u><br/>                 あつみ製材再建検討委員会の設置</p>   | <p>・消費増税 3%→5%<br/>                 ・京都議定書採択<br/>                 (気候変動枠組条約の履行)</p>          |
| <p>H12 9月<br/>10月<br/>11月</p> | <p>木材共販通算 400回/製材引受計画に伴い最終市(閉鎖)<br/>                 臨時総代会の開催<br/>                 (※あつみ製材協の資産引受と経営再建長期計画承認の件)<br/>                 加工部門を新設(製材引受準備とともに土木用資材の製造開始)</p> |  |
| <p>H13 3月<br/>4月<br/>12月</p>  | <p>あつみ製材協の資産譲渡(引受)契約の締結、製材事業開始<br/>                 組合の経営体質強化検討委員会を設置<br/>                 「組合事務所」を温海から現在の大岩川工場敷地へ移転</p>  |  |
| <p>H14 6月</p>                 | <p>第53回全国植樹祭「遊学の森(金山町)」</p>   | <p>・国産材の供給量・自給率とも過去最低</p>  |
| <p>H15 5月</p>                 | <p>温海町森林組合改革プラン策定(組織・事業改革・増資計画の実行)</p>  | <p>・H16 新潟県中越地震</p>  |
| <p>H17 5月</p>                 | <p>第40回通常総代会<br/> <u>第6代組合長 佐藤重夫氏 就任</u></p>  |  |
| <p>H19</p>                    | <p>やまがた緑環境税の導入(荒廃森林整備の推進など)</p>   |  |
| <p>H20 3月</p>                 | <p>あつみ製材引受損金等による繰越欠損金の補填計画達成(金額解消)</p>  |  |
| <p>H21 7月<br/>12月</p>         | <p>森林境界明確化と団地化利用間伐施業の推進に取組む<br/>                 「森林・林業再生プラン」の策定(10年後の木材自給率50%目標)<br/>                 ゲリラ的降雪により中山間地帯の人工林が甚大な被害を受ける</p>                               |  |
| <p>H22 5月<br/>11月</p>         | <p>山形県の中核組合認定を受ける<br/>                 2m原木ラミナ製材施設竣工・操業開始(普通製材を廃止し、大型集成材工場との提携)</p>   | <p>・公共建築物等における木材利用促進法が施行</p>   |
| <p>H23</p>                    | <p>公的機関等による森林整備事業の減少</p>  | <p>・新しい「森林・林業基本計画」スタート<br/>                 ・東日本大震災(未曾有の大被害)<br/>                 ・国際森林年</p> |
| <p>H24 4月</p>                 | <p>提案型集約化(搬出間伐)施業の取組をスタート<br/>                 (高性能林業機械活用と森林作業道作設による搬出システムを確立)<br/>                 ※搬出間伐での利益還元の実現</p>  |  |
| <p>H25 5月<br/>10月</p>         | <p>組合の「経営ビジョン・中期経営計画」を策定<br/>                 鶴岡市に木質バイオマス発電施設の整備を決定<br/>                 (株)鶴岡バイオマスの設立(出資参加)</p>  | <p>・再生可能エネルギー固定買取制度(FIT)の施行</p>  |
| <p>H26 5月</p>                 | <p><u>第7代組合長 大井喜助氏 就任(現在)</u></p>   | <p>・消費増税 5%→8%</p>   |
| <p>H27 5月</p>                 | <p>第50回通常総代会</p>  | <p>・第38回全国育樹祭「遊学の森(金山町)」</p>   |



第5代組合長  
大滝淑勝氏



第6代組合長  
佐藤重夫氏

■ 組合の事業等取扱高の変化

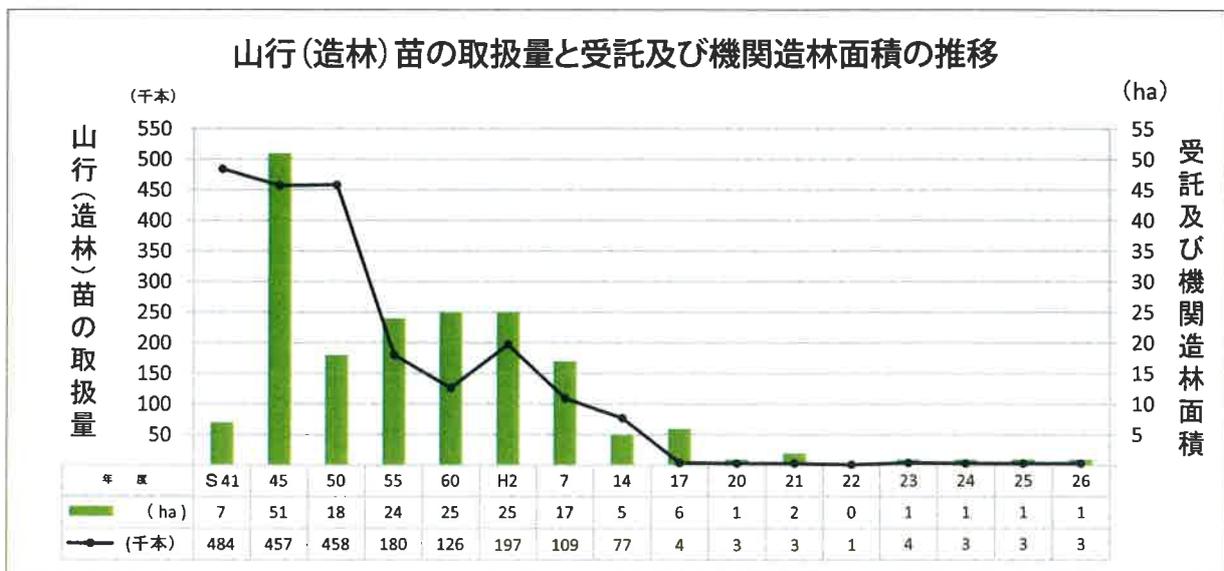


「総代会資料業務報告書による」

当組合は、設立当初から木材共販事業に取組み、高度経済成長による木材価格の高騰とともに、事業の総取扱高は3億円台へと増高しました。素材生産量は平成12年頃からバブル景気崩壊後の長引く景気悪化による木材需要の低迷と共販事業の廃止、普通製材事業の不振によって落込み、その後生産体制の強化等に着手するとともに、平成24年度から本格的な森林作業道の作設と高性能林業機械の活用による搬出間伐を主体とした提案型の集約化施策に取組み、平成26年度の木材生産量は過去最高となる約17千m³に急増しています。一方、保育事業は若齢林の減少で激減しました。



■ 激減した植林事業



「総代会資料業務報告書による」



国の造林政策によって、戦後復興で皆伐された跡地への造林や拡大造林のため、温帯地域でも造林活動が盛んに行われ、昭和47年には50万本を超える苗木が植林されました。しかし、木材価格の下落とともに、山への関心が徐々に失われ、さらに機関造林面積も激減し、近年のスギ苗木の需要量はピーク時の1%にも満たず、植林はほとんど進んでいない現状にあります。

■成熟した温海地域の人工林資源

温海地域の民有林人工林面積は8,160haで人工林率は50%に達しています。

その齢級配分は、皆伐が進まず植林が極めて少ない状況から資源は年々成熟する一方にあり、現在は10齢級以上の林分面積が80%を超え、利用可能な資源は増大しています。



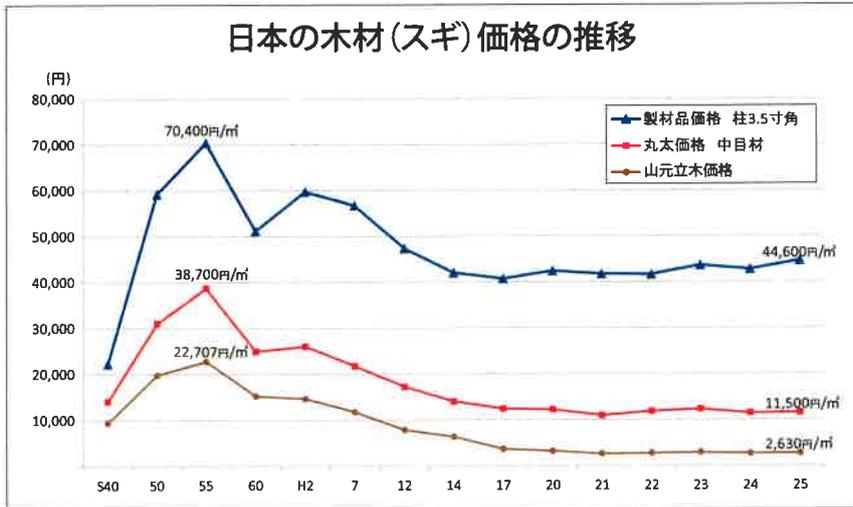
温海地域人工林齢級別資源構成表



「平成27年度森林簿データ」

■日本の木材価格の変化と需要動向

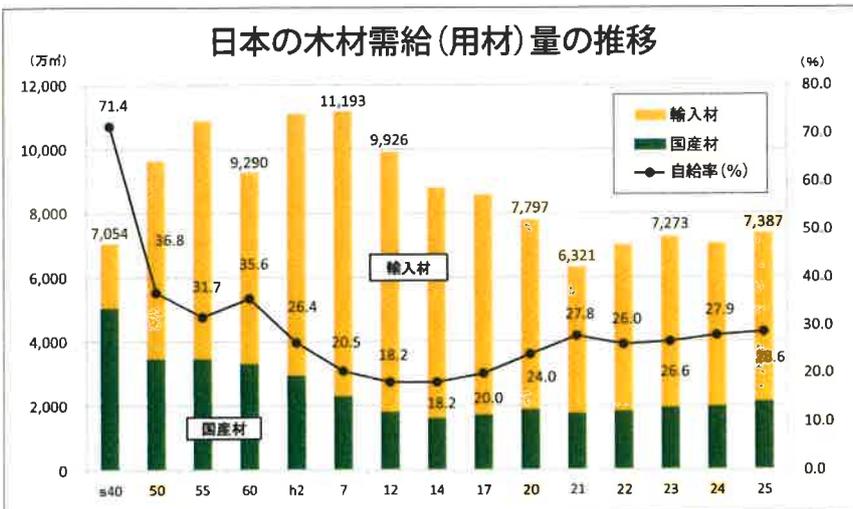
日本の木材(スギ)価格の推移



木材価格は、昭和55年の中盤まで上昇するも、その後一気に下落し、リーマンショックの平成21年まで下降を続けました。近年の山元立木価格は、上下微動を繰り返し、全国平均でピーク時の10分の1程度を推移している状況にあります。

また、木材価格は世界基準の中にあり、建築様式や需要構造の変化等から、今後も大幅な価格の上昇は容易ではないと考えられます。

日本の木材需給(用材)量の推移



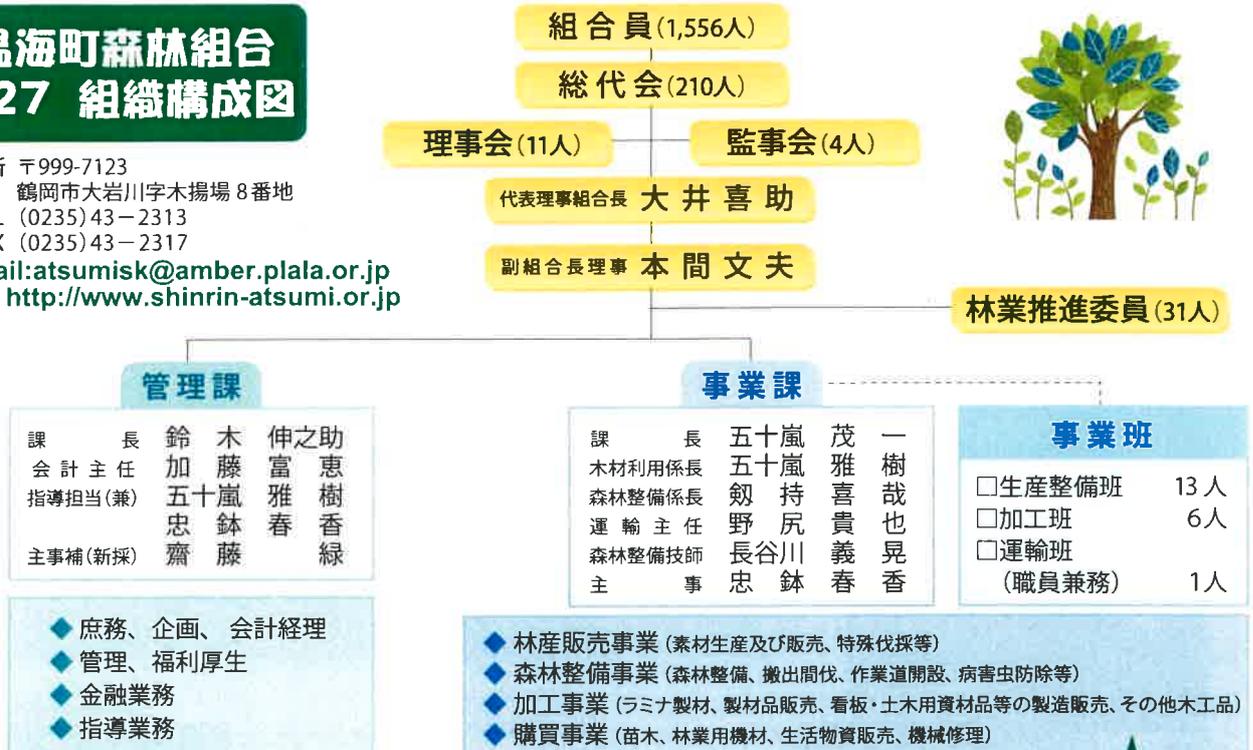
過去における木材の年間需要量は1億m³以上を推移したものの、平成10年以降減少し、平成21年にはリーマンショックの影響からピーク時の半減近くとなりました。

昭和40年代半ばから木材の主役は国産材から外材へ移行し、平成14年には供給量・自給率と最低を記録しました。しかし、近年の国産材の供給量は、外材輸入量の減少や需要と供給体制の整備に取組む国策から増加傾向にあり、今後自給率はさらに高まるものと期待されています。

「農林水産省木材需給報告書による」

# 温海町森林組合 H27 組織構成図

住所 〒999-7123  
 鶴岡市大岩川字木揚場 8 番地  
 TEL (0235)43-2313  
 FAX (0235)43-2317  
 E-mail:atsumisk@amber.plala.or.jp  
 URL http://www.shinrin-atsumi.or.jp



### 管理課

◆ 庶務、企画、会計経理  
 ◆ 管理、福利厚生  
 ◆ 金融業務  
 ◆ 指導業務

### 事業課

◆ 林産販売事業 (素材生産及び販売、特殊伐採等)  
 ◆ 森林整備事業 (森林整備、搬出間伐、作業道開設、病害虫防除等)  
 ◆ 加工事業 (ラミナ製材、製材品販売、看板・土木用資材品等の製造販売、その他木工品)  
 ◆ 購買事業 (苗木、林業用機材、生活物資販売、機械修理)

## 「山形県森林・林業功労者知事感謝状」 受賞 五十川 本間文夫 氏

去る6月6日、金山町の遊学の森において「やまがた森の感謝祭2015」が開催され、その式典で吉村県知事から本間さんへ感謝状が授与されました。本間氏は、五十川生産森林組合長、鶴岡市生産森林組合連絡協議会長、当組合副組合長理事の現職にあり、これまで組織による活発な研修活動や新たな技術による森林整備の取組など、地域林業の模範となる功績が讃えられました。

## お願い

**組合員資格等の変更届について**  
 山林の相続や売買などにより所有名義や所有面積に移動があった時は、変更手続きをお願いします。

## お知らせ

**役員(理事)の欠員に伴う補欠選挙について**  
 去る4月6日、理事佐藤豊和さん(木野俣)のご逝去により欠員となった理事1名の補欠選挙を下記により行います。  
 ・立候補及び推選の届出：平成27年7月27日17時まで組合へ  
 ・選挙の期日及び時刻：平成27年7月30日8時から17時  
 なお、立候補者が補欠の数を超えない場合、選挙は行わない。

## 新採職員紹介

4月1日採用 五十川 齋藤 緑(27歳)

一日も早く皆様のお役に立てるよう努力してまいります。何卒ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

## 表紙の紹介

### 日本海の島々を望む絶景ポイント

鼠ヶ関の街並・弁天島を眼下に粟島が浮かぶ日本海を眺望し、空気が澄んだ晴れた日は 飛島、佐渡ヶ島を望むことができます。ここは、鼠ヶ関から市道裏沢線を経由し、昨年度完成した「林業専用道橋掛線」を1.5km程進み、西に突き出た峰にあります。(※林業専用道は、目的使用が原則であり、一般車両の進入による事故等の責任は負えません。)

ゴミの不法投棄は 犯罪です。マナーと自然環境を守りましょう! “熊にご用心”

## 木材市況 2015.5

一般材の出材が中心で4m角目材への応札が多く売売となった。しかし、全体的に荷動きが鈍く、当用買いが中心となっている。

県森連庄内木材流通センター 単位: m³/円

樹種	長さm	末口径級cm	高値	中値	備考
杉	4.00	36cm	13,320	12,240	◎
		20cm上	12,060	11,520	△
		14~18cm	11,556	10,800	◎
	3.65	20cm上	12,528	11,880	○
		14~18cm	—	—	—
	3.00	20cm上	—	11,520	△
14~18cm		—	—	—	

## 軽トラ林業

### ラミナ用2m原木を現金買取り

長さ	末口径	1本単価
2m	14cm	150円
2m	16cm	200円
2m	18cm	450円
2m	20cm	560円
2m	22cm	670円
2m	24cm	800円
2m	26cm	1,000円

組合へ、軽トラ等で直接搬入すると現金をその場でお支払いしています。なお、左記以上の径級単価設定もあります。  
 ●注意 ●長さ 2m以上+10cmまで  
 ●曲り 矢高5cm以内  
 ●その他 虫害、腐れ、割れなど

※備考欄の◎高・○保合・△安は前月比